

一般社団法人 苫小牧青年会議所

2018年度 役員並びに出向者名簿

※ 理事長	丹 治 秀 章
直前理事長	鏡 吉 伸
※ 副理事長	磯 貝 大 地
※ 副理事長	佐 藤 章 一
※ 副理事長	渡 辺 秀 敏
※ 専務理事	玉 川 健 吾
監事	廣 島 貴 典 (特別会員)
監事	阿 部 和 法
※ アカデミー塾	塾長 矢 木 拓 郎
※ 創立65周年運営会議	議長 葛 西 賢 治
※ 運営室	室長 佐 藤 千 文
※ 事業室	室長 佐々木 真 史
※ 政策・拡大室	室長 杉 村 原 生
※ 開発室	室長 中 岡 亮 太
※ 創立65周年運営会議	副議長 梶 川 弘 樹
※ LOM向上委員会	委員長 若 林 徹
※ 交流推進委員会	委員長 佐々木 隆 幸
※ おまつり委員会	委員長 鈴 木 吾
※ 教育政策委員会	委員長 櫻 田 泰 己
※ 拡大委員会	委員長 高 橋 銀次郎
※ J A Y C E E の力向上委員会	委員長 上 田 浩 司
※ アカデミー塾	副塾長 藤 原 剣 哉
※ 理事	大 関 正 芳
※ 理事	大津山 泰 斗
※ 理事	源 津 善 崇
※ 理事	山 本 康 二
(※は理事)	

【公益社団法人 日本青年会議所 出向者】

デフレ完全脱却実現会議	運営幹事	廣島貴典
デフレ完全脱却実現会議	議 員	大宮久司
教育再生会議	議 員	矢木拓郎
教育再生会議	議 員	長沼啓示
財政規則審査会議	議 員	山本康二
世界の中の日本確立委員会	委 員	丹治秀章
世界の中の日本確立委員会	委 員	西村浩生

【公益社団法人 日本青年会議所 北海道地区協議会 出向者】

財政特別委員会	委 員 長	山本康二
財政特別委員会	委 員	大関正芳
財政特別委員会	委 員	青地宏史
地区大会運営委員会	委 員 長	葛西賢治
地区大会運営委員会	幹 事	吉井 生
地区大会運営委員会	委 員	青塚昇太
地区大会運営委員会	委 員	阿部和法
地区大会運営委員会	委 員	磯貝大地
地区大会運営委員会	委 員	佐藤章一
地区大会運営委員会	委 員	若林 徹
広報渉外委員会	副委員長	佐藤天亮
広報渉外委員会	委 員	山崎陽平
教育再生推進委員会	副委員長	源津善崇
教育再生推進委員会	委 員	大野琢也
教育再生推進委員会	委 員	日沼直竹
教育再生推進委員会	委 員	松本和浩
道南エリア運営会議	議 員	大津泰斗
道南エリア運営会議	議 員	阿部英樹
道南エリア運営会議	議 員	細谷祐輔
道南エリア運営会議	議 員	横山美加

歴代理事長・副理事長・専務理事

昭和28年度

初代理事長 先田 秀雄
副理事長 岩倉 賢周
藤田 俊介

昭和29年度

2代理事長 先田 秀雄
副理事長 岩倉 賢周
藤田 俊介

昭和30年度

3代理事長 先田 秀雄
副理事長 岩倉 賢周
朝倉 治郎

昭和31年度

4代理事長 先田 秀雄
副理事長 岩倉 賢周
朝倉 治郎

昭和32年度

5代理事長 先田 秀雄
副理事長 岩倉 賢周
朝倉 治郎

昭和33年度

6代理事長 先田 秀雄
副理事長 岩倉 賢周
朝倉 治郎

昭和34年度

7代理事長 朝倉 治郎
副理事長 加藤 悟
中嶋 義隆

昭和35年度

8代理事長 加藤 悟
副理事長 福原 周一
成田 繁

昭和36年度

9代理事長 成田 繁
副理事長 中村 光雄
蔵本 武治

昭和37年度

10代理事長 蔵本 武治
副理事長 長野 一雄
荒木 潤司

昭和38年度

11代理事長 長野 一雄
副理事長 荒木 潤司
清水 沖啓

昭和39年度

12代理事長 荒木 潤司
副理事長 木村 寿治郎
伊藤 嬌二

昭和40年度

13代理事長 木村 寿治郎
副理事長 伊藤 嬌二
須貝 泰嗣

昭和41年度

14代理事長 蔵本 昌明
副理事長 八若 博明
宮田 軍一

昭和42年度

15代理事長 伊藤 晴蔵
副理事長 先田 譲二
中嶋 昌実

昭和43年度

16代理事長 先田 譲二
副理事長 橋浪 蔵蔵
藤井 政雄
石田 貢

昭和44年度

17代理事長 岩倉 光博
副理事長 川端 納
近藤 重明
三橋 信一

昭和45年度

18代理事長 石田 貢
副理事長 朝倉 瑞秀
岡部 照一
金谷 守
専務理事 藤井 政雄

昭和46年度

19代理事長 八若 博明
副理事長 石井 公悦
板谷 剛
渡辺 忠保
専務理事 古戸 寅雄

昭和47年度

20代理事長 佐藤 裕
副理事長 石田 巖
小玉 昌彦
松井 郁夫

昭和48年度

21代 理事長 永井高明
副理事長 松崎徳一
脇本徹哉
高橋和雄

昭和49年度

22代 理事長 高橋和雄
副理事長 阿部喜朗
松井郁夫
古戸寅雄

昭和50年度

23代 理事長 古戸寅雄
副理事長 板谷剛
亘島久志
蝦名久志
専務理事 岩崎一彦

昭和51年度

24代 理事長 板谷剛
副理事長 神保康夫
伊藤正
尾野信夫
専務理事 竹尾昌己

昭和52年度

25代 理事長 松崎徳一
副理事長 荒城悟男
横山幸司
上田宣政
専務理事 阿部喜朗

昭和53年度

26代 理事長 松井郁夫
副理事長 宮崎英樹
大友弘
蔦森勝征
専務理事 小林充

昭和54年度

27代 理事長 荒城悟男
副理事長 河村義正
牧田宏
吉本俊憲
専務理事 岩倉博文

昭和55年度

28代 理事長 宮崎英樹
副理事長 阿部喜朗
小林充
壬生賢哉
専務理事 今川健児

昭和56年度

29代 理事長 阿部喜朗
副理事長 大津山峻
早川隆一
岩倉博文
専務理事 山口勉

昭和57年度

30代 理事長 川田憲秀
副理事長 両川武弘
玉川健仁
斉藤仁
専務理事 佐藤義行

昭和58年度

31代 理事長 壬生賢哉
副理事長 河村義正
岩倉圭彦
山口勲
専務理事 小保方伸一

昭和59年度

32代 理事長 牧田宏
副理事長 本間敏彦
今成克正
岩倉博文
専務理事 田村雄二

昭和60年度

33代 理事長 岩倉博文
副理事長 大津山峻
宮本知治
不川智詞
伊尾茂
専務理事 大澤隆之

昭和61年度

34代 理事長 大津山峻
副理事長 玉川健仁
渡邊建治
今成克正
小保方伸一
専務理事 先田一郎

昭和62年度

35代 理事長 斉藤仁
副理事長 山下明
針生政春
田村雄二
専務理事 工藤英幹

昭和63年度

36代 理事長 田村雄二
副理事長 福原次郎
志方晴樹
榊原和久
大澤隆之
専務理事 青地洋一

平成元年度

37代 理事長 渡 邊 建 治
副理事長 渋 谷 正 義
吉 田 直 大
藤 島 豊 久
丹 治 秀 寛
専務理事 佐 藤 弘

平成2年度

38代 理事長 岩 倉 圭 彦
副理事長 丹 治 秀 寛
田 中 正 彦
秋 山 集 市
阿 部 明 弘
専務理事 大澤助三郎

平成3年度

39代 理事長 丹 治 秀 寛
副理事長 佐 藤 弘
青 地 洋 一
佐 藤 幸 博
梶 川 昇
専務理事 朝 倉 瑞 昌

平成4年度

40代 理事長 阿 部 明 弘
副理事長 大澤助三郎
寺 坂 志 敏
成 田 幸 隆
藤 島 豊 久
大会準備特別委員長 田 中 正 彦
専務理事 川 端 隆 志

平成5年度

41代 理事長 田 中 正 彦
地区大会実行委員長 朝 倉 瑞 昌
副理事長 武 田 敏 明
高 橋 徹 哉
石 塚 久 博
福 土 徳 彦
専務理事 古 木 匡 司

平成6年度

42代 理事長 大澤助三郎
副理事長 中 村 友 和
朝 倉 瑞 昌
赤 川 勉
専務理事 柳 谷 真

平成7年度

43代 理事長 朝 倉 瑞 昌
副理事長 山 崎 肇
古 木 匡 司
専務理事 丸 屋 輝 夫

平成8年度

44代 理事長 村 木 透
副理事長 古 木 匡 司
山 田 新 一
吉 田 幸 徳
専務理事 赤 川 勉

平成9年度

45代 理事長 成 田 幸 隆
副理事長 千 葉 仁 司
木 村 司
柳 谷 真 人
村 上 義 人
LOM事業運営会議議長 古 木 匡 司
専務理事 青 木 俊 憲

平成10年度

46代 理事長 木 村 司
副理事長 青 木 俊 憲
橋 本 勇 治
丸 屋 輝 夫
専務理事 渡 邊 武 志

平成11年度

47代 理事長 丸 屋 輝 夫
副理事長 鈴 木 傑
小 栗 智 加 志
長 谷 川 智 始
専務理事 清 野 始

平成12年度

48代 理事長 青 木 俊 憲
副理事長 福 井 洋 幸
本 間 裕 章
清 野 始 一
山 口 武 宏
専務理事 坂 本 将 一

平成13年度

49代 理事長 山 口 武 宏
副理事長 吉 田 正 範
渡 邊 武 志
坂 本 将 一
専務理事 岩 村 孝 徳

平成14年度

50代 理事長 福 井 洋 幸
副理事長 吉 田 正 範
杉 浦 真 城
専務理事 高 橋 憲 司

平成15年度

51代 理事長 吉 田 正 範
副理事長 岩 村 孝 徳
杉 浦 真 城
50周年プロジェクト会議議長 山 口 武 宏
地区大会準備プロジェクト会議議長 渡 邊 武 志
専務理事 瀬 野 誠

平成16年度

52代 理事長 渡 邊 武 志
地区大会主管実行委員長 坂 本 将 一
副理事長 瀬 野 誠
喜 多 新 二
工 藤 裕 介
高 橋 憲 司
専務理事 上 田 弘 政

平成17年度

53代 理事長 坂 本 将 一
副理事長 矢 部 道 晃
小 林 裕 治
清 水 一 広
杉 浦 真 城
人間力推進会議議長 中 原 茂 人
アカデミー塾塾長 高 橋 憲 司
専務理事 神 田 英 俊

平成18年度

54代 理事長 矢 部 道 晃
副理事長 長 山 愛 一 郎
中 原 茂 人
阿 部 喜 憲
神 田 英 俊
専務理事 土 屋 英 樹

平成19年度

55代 理事長 岩 村 孝 徳
副理事長 尾 野 仁 昭
藤 田 健 次 郎
専務理事 米 田 嘉 慎

平成20年度

56代 理事長 高 橋 憲 司
副理事長 鈴 木 史 朗
上 田 弘 政
佐 藤 瑞 輝
神 田 英 俊
専務理事 藤 田 健 次 郎

平成21年度

57代 理事長 上 田 弘 政
副理事長 竹 越 昌 彦
鷹 松 英 樹
土 屋 英 樹
乾 哲 也
専務理事 廣 澤 隆

平成22年度

58代 理事長 土 屋 英 樹
副理事長 笹 嶋 隆 廣
米 田 嘉 慎
藤 田 健 次 郎
矢 部 大 観
専務理事 伊 部 尚 宏

平成23年度

59代 理事長 藤 田 健 次 郎
副理事長 阿 部 栄 一 郎
吉 本 一 憲
島 崎 克 志
専務理事 藤 淳 一

平成24年度

60代 理事長 吉 本 一 憲
副理事長 星 野 岳 夫
佐 藤 元 信
伊 部 尚 宏
廣 澤 隆 義
専務理事 松 本 義 孝

平成25年度

61代 理事長 伊 部 尚 宏
副理事長 松 本 義 孝
佐 々 木 亮 輔
青 山 直 樹
アカデミー塾塾長 廣 澤 隆 義
専務理事 相 馬 司

平成26年度

62代 理事長 廣 澤 隆 義
副理事長 金 久 徹
阿 部 和 法
矢 木 拓 郎
アカデミー塾塾長 藤 淳 一
組織連携推進会議議長 青 山 直 樹
専務理事 大 槻 卓 矢

平成27年度

63代 理事長 青 山 直 樹
副理事長 廣 島 貴 典
大 槻 卓 矢
藤 淳 一
アカデミー塾塾長 亀 谷 太 郎
地区大会立候補会議議長 山 本 康 二
専務理事 鏡 吉 伸

平成28年度

64代 理事長 藤 淳 一
副理事長 山 本 康 二
鏡 吉 伸
葛 西 賢 治
アカデミー塾塾長 春 日 剛 史
地域未来創造会議議長 阿 部 和 法
専務理事 丹 治 秀 章

平成29年度

65代 理事長 鏡 吉 伸

副理事長 大 関 正 芳

丹 治 秀 章

阿 部 和 法

アカデミー塾 塾長 大 槻 卓 矢

地区大会準備会議 議長 佐 藤 章 一

専務理事 渡 辺 秀 敏

一般社団法人 苫小牧青年会議所

2018 年度 理事長基本方針

理事長 丹 治 秀 章

未来への一歩

《 はじめに 》

現在の私はどの様にして在るのでしょうか。それはこの世に生れ落ちてから、その時々意思と行動である生きた歴史の連続から成っているのではないのでしょうか。それは人だけではなく、国やまち、会社、家族、あらゆる物に通じると考えます。未来を生きるためには、歴史の連続を分断して考える事は出来ません。そして、輝き溢れる明るい未来の方向は、歴史を知らずして創造する事は出来ないのです。

苫小牧開拓の歴史は寛政12年に勇払の地に八王子千人同心が開拓に入った事が始まりです。厳しい自然を相手に原生林を切り拓き、人が住める環境にするのは想像を絶する苦難の連続があったに違いありません。過酷な環境の中、数年で開拓は終わりを迎えますが、未来に住まう人達のために未知の世界に足を踏み入れた事が、今日の苫小牧の原点であると言えます。未知の世界に踏み出す時は、誰にでも不安や恐れがあります。しかし、いつの時代も誰かがまちのためを想い、声をあげ、あらゆる困難にも負けずに、行政や産業の様々な分野で先駆的な取り組みを続け、次の世代に繋げてきたからこそ、現在の苫小牧が形作られています。勇気をもって踏み出せば、そこに足跡が残ります。そして、多くの人が残した幾重にも重なる足跡が未来へ通じる道を創るのです。

苫小牧の原点から未知の世界を切り拓く精神性を学び、いつの時代もまちを愛し、まちのために運動を続けてこられた先輩諸氏に感謝の心を忘れず、責任世代である私達が、まちを形成する一員だと強く自覚を持ち、いかなる事も自分事と捉え、進むべき未来の方向を見定め、歩みを進めて行かなければなりません。

すべては未来を生きる人達のために、まちをより良くする事です。私達が青年会議所運動を通じて、明るく元気に前を向いて歩み続ける事が、共感を呼び自らが率先して行動する意識を拓けます。そして、一人では不可能と思える事も、多くの人を巻き込み、歩みを共にする事で、輝き溢れる未来へ続く道を創ります。

《 運営に関する支援 》

本年度は苫小牧青年会議所創立65周年、第67回北海道地区大会主管と様々な事が重なる年です。どの様な年であっても、私達の原点は、地域に対しての運動です。多くの事に臨む中でも、私達が地域に果たすべき役割を全うするためには、会の士気を高め、LOMを結束させていかなければなりません。また、あらゆる事態に柔軟に対応する事で、運営の効率が向上します。

《 LOMのまとめと組織価値の向上 》 運営室

時代に即したまちづくりを目指す私達は、常に時代に即した組織として進化していかなければなりません。人の集まりが組織を形成するのであれば、意思を決定する諸会議が円滑に行われる事は勿論ですが、価値観が多様化している現代においては、様々な角度から物事を捉え、情報発信と収集の重要性をよく理解し、共通認識を明確に示していかなければ組織として成り立ちません。そのためには、多くの情報発信から私達の向かうべき方向や、共に歩む仲間の活動を広め、会の意識をまとめなくてはなりません。また、地域と共に歩む団体として共感を広めると共に循環させて、多くの参加と連携の下地を作る事が、さらなる意識変革を生み出すきっかけとなります。

《 繋がりと楽しみを育む 》 事業室

現在の苫小牧青年会議所に、素晴らしい歴史と伝統があるのは、全ての敬愛する先輩諸氏がこれまで地域を愛し、運動を続けてこられたからであり、最大限の感謝の気持ちを表す事が必要です。そして、深い感謝の想いから歴史と伝統を学び、育てられた私達が、次の世代に繋げて行く事で、未来への道が切り拓かれます。次の世代へ繋げるためには、私達が多くの繋がりを持たなければなりません。会員同士の時間を共有する場をあらゆる手法で創出、提供する事が必要です。さらに、直接的な関わり方以外に、間接的な関わり方も含め運動を進める事で、より多くの繋がり が創られます。また、全会員が楽しみ一つ目標へ向かう事で、繋がりから絆が生まれ、会の団結力がより強固になります。繋がりが多ければ多い程、楽しみは大きくなり、地域を動かす原動力となります。そして、地域へ繋がりを広げる事で、より多くの人と楽しみを分かち合え、繋がり と楽しみが育まれます。

《 意識変革 》 政策・拡大室

地域はそこに住まう人の意識以上には良くならないのであれば、人の意識の高まりこそが、明るい豊かな未来に繋がる唯一の方法であると考えます。どの様な未来をどの様に繋げていくのかを、住まう人達が真剣に考える事が必要であり、そのきっかけを作り出し、議論を深める事こそ私達が行うべき

運動です。日本全体を見ると、人口減少、経済の停滞、地域力の低下、挙げればきりが無い程の問題が日々報道されております。人が社会を形成するのであれば、経済や地域の問題の根本は人にあり、私達責任世代がしっかりとした基

本となる道徳観と倫理観を持った上で、本質を掴み取り、基本からくる自立と自律による自発的な次代を担う若者達を地域が一体となって育てる事が、人口減少社会における経済や地域の活性化に繋がる最大の課題であると考えます。そして、より多くの意識変革を成すためには、志を同じくする会員が必要です。会員の減少は日本全国の青年会議所の問題ですが、幸い苦小牧青年会議所は近年会員数が増加傾向にあります。今後は苦小牧青年会議所も会員拡大に関して未知の領域を切り拓いていかなければなりません。これまで蓄積された情報整理と、そこから見えてくる人の流れから、戦略的な会員拡大方法を会全体で共有し、確実に実践していかなければなりません。また、志を同じくし共に歩むための意識変革だけでなく、地域の責任世代としての意識変革の輪も拡大していく事が重要です。その両輪を拓ける事で、地域を照らす志が拡大されます。

《 個の成長から成る周囲への意識変革 》 開発室

苦難を共にできる仲間、地域を想う心、率先して物事に取り組む姿勢、青年会議所では様々な事が得られます。何事でもそうですが、基本やあるべき姿を知らずして、応用はありません。なぜそうなるのか、なぜこうしなければならないのか。背景にある本質をよく理解し、根本にある様々な基本的要素を学び、身に付ける事で、個の能力が向上し、会としての運動もより効果を増します。さらに、J A Y C E Eの基本は、地域の青年経済人としてあらゆる場面で活用できると共に、地域において必ずや、周囲に影響を与える人物となり得ます。個の成長は自分のためだけではなく、自身を取り巻く全ての人の意識変化と成長を促し、まちづくりをより加速させる事に繋がります。

《 これまでの感謝とこれからの想い 》 創立65周年運営会議

苦小牧青年会議所が65年の永きに渡り、地域のために「まちづくり」「ひとづくり」を行ってこられた事は、多くの先輩達が故郷を想い、この地を良くしようと時代に即した明るい明日への目標を持ち、運動を続けてこられた結果です。そして、その積み重ねが会の歴史と伝統を創り、私達の活動、運動の礎となっております。今の私達の「まちづくり」「ひとづくり」の目標となるものが創立60周年の際に、10年後の「とまこまい」を見据えて策定された未来への宣言です。また、今後も時代に即した明るい明日を目指すために、節目である本年度に、多くの足跡を改めて検証し、未来がより輝き

溢れるものになる様に故郷と先輩諸氏への感謝を抱き、次の一步を踏み出していかなければなりません。さらに、私達は過去から学ぶ事で、明日を生きる指針を産み出します。この繰り返しがさらなる歴史と伝統を育み、地域からより付託と信託を得られ、この地に住まう人々の意識変革の下地が創られます。そして、私達が今後目指す明日の「とまこまい」を示す事で活動、運動が力強く推し進められます。

《 新たな人材の育成 》 アカデミー塾

青年会議所とは地域のために、常に変化を求め柔軟な考えと行動力を持って、運動する団体です。毎年、入会と卒業を繰り返す事で、会も変化を繰り返します。地域へより一層の意識変革をもたらすためにも、新入会員の育成が必要です。多くの時間を共有し、個性を尊重しながら対話を重ねる事で、基本となる青年会議所活動や運動の本質への理解が深まります。そして、青年会議所活動や運動を通じて多くの絆が育まれ、仲間と呼べる存在が広がります。また、仲間と共に切磋琢磨する事で、一人ひとりが輝きを放つ存在となり、地域に対する運動の推進力が向上します。さらに、新入会員の成長の過程は本人達だけのものではなく、私達が己を顧みる一つのきっかけともなり、会の成長の好循環を生み出します。

《 結びに 》

今のあなたは何を想い行動しているでしょうか。忙しさの中で、知らず知らずのうちに、妥協したり諦めたりしていないでしょうか。今日の気づきや、学び、諦めない姿勢が明日のあなたを創ります。

あなたの明日が素晴らしいものになるように。そして、あなたの周囲にいる人と手を取り合い、全ての人達の明日が輝き溢れる明るいものになるように。その先にこそ、私達が目指すべき「とまこまい」が待っています。

一般社団法人 苫小牧青年会議所

2018 年度 基本計画

【基本理念】

まちづくり、ひとづくりから成る輝き溢れる未来の創造

【スローガン】

踏み出す一步が未来を変える ～ともに歩もう輝く次代へ～

【基本方針】

1. 会員の士気を高め、あらゆる事態に柔軟に対応
2. 情報共有と組織価値の向上
3. 様々なかたちでの繋がり場の創造
4. 連携から成る多くの楽しみを育む運動の実施
5. 地域を巻き込み、共に考える運動の実施
6. 未来へ向けて共に歩む責任世代との連携
7. 地域を牽引する人財の育成
8. 感謝と輝き溢れる未来の発信
9. 未来を担う会員の育成

【各組織職務分掌】

□ LOMサポート

- ・専務理事の支援
- ・会員の結束力を高める例会の実施

■ 運営室

□ LOM向上委員会

- ・総会、理事会等の諸会議における準備、設営、議事録作成、庶務に関する事項全般
- ・諸会議における上程資料の管理及び書類の管理、保管
- ・要覧、会員名簿、報告書、広報誌の作成及び配布、発送
- ・ホームページや各種メディアを活用した組織価値を向上させる広報活動
- ・各種例会、事業における目的を意識させる情報発信の実施
- ・LOM活動、運動に関する記録と、管理、保管に関する事項全般
- ・アテンダンス管理並びに対外事業に関する出欠管理支援
- ・アワード例会の企画、運営
- ・会員拡大の推進と実施
- ・創立65周年に関する事項の運営

■ 事業室

□ 交流推進委員会

- ・新年交礼会、OB交流事業、卒業式の実施
- ・道南エリアスポーツ大会においての交流支援の実施
- ・交流を図るあらゆる事業の模索
- ・会員同士の繋がりをより強固なものとする例会の企画、運営
- ・会員拡大の推進と実施
- ・創立65周年に関する事項の運営

☐ おまつり委員会

- ・スケートまつり、港まつりへの楽しみ溢れる事業参画
- ・スケートまつり、港まつりへの参画の在り方についての検討
- ・たるまえサンフェスティバルの参画についての調査分析並びに手段の模索
- ・地域の間接的な関わり方も含めた各種おまつりを育てる手法の検討並びに実施
- ・会員拡大の推進と実施
- ・創立65周年に関する事項の運営

■ 政策・拡大室

☐ 教育政策委員会

- ・地域活性化の観点での自発的な次世代教育に関する例会、事業の実施
- ・市民、行政、各種団体を巻き込んだ事業の実施
- ・会員拡大の推進と実施
- ・創立65周年に関する事項の運営

☐ 拡大委員会

- ・苦小牧青年会議所会員拡大に関する調査分析、情報管理、庶務全般
- ・拡大対象者情報を基に立案する戦略的会員拡大方法に関する担当例会の企画、運営
- ・地域の責任世代と共に学ぶ事業の企画、運営
- ・創立65周年に関する事項の運営

■ 開発室

☐ J A Y C E Eの力向上委員会

- ・J A Y C E Eとして基本を身に付け、周囲に影響を与えられる人財育成に関する例会、事業の企画、運営
- ・会員拡大の推進と実施
- ・創立65周年に関する事項の運営

■ 創立65周年運営会議

- ・各種周年事業に関する調査分析
- ・苦小牧青年会議所創立65周年実施組織の立ち上げ及び運営
- ・苦小牧青年会議所の歴史と未来を次代へ繋げる例会、事業の企画、運営
- ・苦小牧青年会議所創立65周年記念式典及び懇親会の企画、運営
- ・会員拡大の推進と実施

■ アカデミー塾

- ・青年会議所の本質を学ぶ塾会議の実施
- ・多くの絆を育み仲間を作る塾運営の実施
- ・研修の成果を発揮し、組織を活性化へ導く例会の企画、運営
- ・会員拡大の推進と実施
- ・創立65周年に関する事項の運営

専務理事 運営方針

光の射す方へ

専務理事 玉川 健吾

いつの時代も他のために想い勇気を持って困難に挑戦してきた先輩諸氏による「まちの未来を想う心」が地域を創り今日があります。私達は積み重ねられた心を絶やす事なく、さらに一步踏み出し未来へ継承しなければなりません。運営の長として、メンバーが個々の力を出し切り、どんな目標にも臆する事なく、明るい豊かな社会に向かって渾然一体となって運動していくには、全体を俯瞰して組織を進むべき方向へと導く事が求められます。

そのためには、メンバーが目標に向かって最大限力を発揮するべく、運営の源となる各種会議体における事業の管理と把握に努め、運営面並びに財政面からの支援を適切に行います。そして、他を慮り連携し合う組織とするために、メンバーの声を隅々から汲み取り、多様な価値観を尊重しながら真摯に耳を傾け、真剣に議論を尽くし相互理解を深める事で高い志を共有します。さらに、透明性と公益性を持った運動の価値を高め地域より付託された担いを果たすために、一層メンバーの意識向上と成長を図りながら活動環境を整え、組織の進化と強化に繋げます。また、ガバナンスの強化を図るために、運営室と連携を密に取り運営のガイドラインを見直す事はもとより、組織の縦横軸の連携によって財務管理や法令順守を徹底していきます。そして、意識変革のきっかけを創造するために、対内外の情報収集から時代に即した効果的な発信を行い、共感を広く伝播するよう導きます。柔軟且つ円滑に組織運営を行い、進むべき方向を導く事で組織の意識がまとまり、参加と連携の下地が造られ、個々の成長から勇気ある一步を踏み出す強固な組織が創造されます。

これまで紡がれてきたまちづくりに対する想いを受け止め、さらに歩みを進める事で輝き溢れる未来への道が続き、青年会議所運が次世代に継承されます。そして、全ては未来を生きる人達のために、気ある一步を踏み出す事で明るい豊かな苦小牧が創られます。

アカデミー塾 運営方針

KEEP THE FAITH

塾長 矢木 拓郎

青年会議所運動とは、明るい豊かな社会の実現に向け市民の意識を醸成させ、社会変革を行う団体です。変革を実行することが出来る J A Y C E E とは、自分自身を厳しく律し、正義感と揺るぎない信念を携え、率先して行動する人間でなければなりません。期待と不安を抱き入会を決意した塾生は、J A Y C E E としてのあるべき姿を踏まえた上で、常に学ぶ姿勢を忘れずに、苦小牧の輝く明るい未来を担う人財へと成長する必要があります。

そのためには、未来に向かい率先して行動する事の出来る J A Y C E E を育てるべく、常に変化する時代や地域、組織に順応出来る柔軟な考えを持ち、各例会や事業並びに各地で行われる青年会議所活動への参加する意義を伝え、先輩諸氏が築き上げた歴史や伝統、時代を牽引する責任を学び、青年会議所の存在意義と責任行動を体感出来るよう促して参ります。そして、参加したからこそ感じる事があり、気づきを得る事が出来るという事を理解した上で、変化していく時代や地域に求められるリーダーになるために、個々が主体的に行動する意識の醸成、率先して行動する事により得られる資質の向上、固定概念に捉われる事のない柔軟な発想、何事にも恐れず強い信念を貫く、その大切さを伝えて参ります。塾生同士や L O M メンバーとの率先した交流から生まれる仲間意識と、共に切磋琢磨した上で心と心がぶつかり合う貴重な時間を作り上げる事により、その先にある真の友情と揺るぎない強い信頼関係を構築し、様々な苦難や困難を仲間と乗り越えるために必要な信念を貫く心と他を想う優しい心、その両者が織りなす真の絆を体感していただきます。

半年間この学び舎を通じて築き上げた真の絆は、強い気概と勇猛果敢な行動力を L O M に波及させると共に、本気でチャレンジする塾生の姿が原点回帰を促し、更なる L O M の原動力に繋がり、輝き溢れる真の明るい豊かな社会の創造に繋がることと確信致します。

創立65周年運営会議 運営方針

紡がれた想いを未来へ

議長 葛西賢治

苦小牧青年会議所は65年もの長きに渡り、先輩諸氏が同志や各関係諸団体と共に、時代ごとの環境の変化に応じて生じる課題解決に向けて、地域を想い、先駆的に取り組んできました。今を生きる我々の活動や運動も、不連続の連続である歴史と伝統の礎の上に成り立っています。創立65年の節目である本年度、過去から紡がれてきた歩みの中で、地域から付託と信託により応える、未来へ向けた運動を飛躍させることが求められています。

そのためには、メンバー各々が歴史と伝統を学び次代へ繋げるべく、過去の苦小牧青年会議所の例会や事業、対外を含む各種周年事業を調査、分析し、LOM全体での情報の共有を図ります。そして、苦小牧青年会議所をより発展させ未来へ繋げるために、創立60周年の際に制定された「未来への宣言」から、過去5年間の苦小牧青年会議所の歩みを検証した上で、今後5年間の進むべき方向性を提示します。さらに、先輩諸氏や同志、各関係諸団体に、我々の運動へ今後もご賛同とご支援をいただくために、創立65周年記念式典及び懇親会を企画、運営し、心からの感謝と敬意を伝え、未来へ向けて力強く運動を展開していくことを発信致します。また、苦小牧青年会議所の運動の推進力を高めるために、LOM内のあらゆる組織と連携し、創立65周年に関わる事項を含む事業を構築し、円滑に運営して参ります。メンバー各々が歴史と伝統を重んじ、過去から学び、今まで支えていただいた全ての方々への感謝と敬意を携え、LOM一丸となって「まちづくり」「ひとづくり」を行い、進むべき未来への指針をしっかりと見定めた運動へと繋げて参ります。

まちを想い、先人達を想い、進むべき未来を見定めた我々の運動は、地域からより付託と信託を得て加速し、強固で魅力溢れる組織へと昇華し、多くの共感を集めながら市民一人ひとりの意識を変えることで、未来を切り拓く輝き溢れる苦小牧の創造へと繋がります。

運営室 運営方針

百折不撓

室 長 佐 藤 千 文

運営とは組織をまとめ動かしていく事です。我々が日々運動していく中で組織として進化していくには、未知の世界に臆することなく踏み出すことのできる下地作りが必要です。そしてメンバーが気概をもって歩みを進め市民の共感を得られる団体となっていくには、我々の運動を広く発信すべきであり、運営として様々な場面において会の意識をまとめ、円滑な運営が出来るよう下支えとなり、組織としての環境を整えていく必要があります。

そのためには、各委員会が頂く担いの中で最大限に力を発揮し活動していくために、専務理事との連携を密なものにし、ガイドラインの見直しと法令順守を周知徹底し、ガバナンスの強化に努めて参ります。そして、円滑な組織運営のために、ロスの少ない情報伝達で効率化を図り情報共有とスケジュール管理に努め、縦ラインの規律強化と横ラインの繋がりを重視し運営に取り組むよう導いて参ります。さらに、意識変革のきっかけへと繋げていくために、まずは運営室が百折不撓の精神で行動し、様々な場面への参加を行いメンバーへ連携を呼びかけ、共に活動したくなる下地を作れるよう導いて参ります。また、組織価値の向上のために、市民への発信とその先に生まれる共感が重要と捉え、効果的な発信を行えるよう早期に情報を収集分析し、時代に即した手法を用い情報発信し、L O Mの運動がより共感を得られ地域に伝播していけるよう導いて参ります。多くのメンバーが未知の世界に臆することなく踏み出し歩みを進めていけるL O Mとなるために、組織としての環境を整え参加と連携の下地を作り、下支えとしての気概を胸に運営に努めて参ります。

運営室が会の意識をまとめ円滑な運営を進めていくことでメンバーの帰属意識は向上し組織の連携は盤石となり、気概溢れるメンバーが行う運動の発信は市民の共感を得て地域に影響を与え循環が生まれ、我々が目指す輝き溢れる未来の創造へ繋がると確信致します。

事業室 運営方針

架け橋

室 長 佐々木真史

敬愛する先輩諸氏が積み重ねて来られた伝統ある交流、おまつり事業は私達の運動の本質であるまちづくり、ひとづくりの原動力となっております。地域を愛する心とまちの未来を想い運動展開していく基盤となり、弛まぬ努力と共に次の世代へと繋いで来られた事を忘れてはなりません。未来への歩みを託された私達は感謝と責任を持ち、まちへの情熱と未来を切り拓いてきた担いを受け継ぎ、次の世代へと繋いでいく事が求められています。

そのためには、過去から続いている足跡の中に進むべき方向が指し示されている事を理解するべく、これまでの背景を的確に捉えた上で様々な繋がりや連携の場を創出し、気づきを得られる交流を促して参ります。そして、まちの未来へかける想いを一つにするために、心と心が触れ合う絆が生まれる瞬間を創出させ、L O Mが一体と成れるよう導いて参ります。さらに、絆から生まれる団結力を強めるために、一丸となって向かうべき方向を定め、目標を成し遂げられるよう多くの時間が共有される環境を整えて参ります。また、おまつりの関わり方を定めるために、これまでの参画方法による検証を基に、新たな取り組みへの挑戦を含め可能性を切り拓き、未来へ紡ぐおまつりの参画方法へと導いて参ります。さらに、地域、市民との繋がりを広げ更なる共感を呼ぶために、私達が先頭に立ち一体感と達成感を体感していただき、楽しみが育まれる連携を推進して参ります。全ての交流によって楽しみを生み出しL O M全体へと浸透させ、私達が地域を牽引する気概と覚悟を持って未来を切り拓く架け橋となり、次の世代へと繋いでいけるよう導いて参ります。

繋がりから得られる楽しみは私達が未来を切り拓く運動を展開するための原動力であり地域と連携する事で広がり深まります。より多くの人々を巻き込み楽しさを伝播させる事が出来れば、光り輝き希望溢れる明るい豊かな社会の創造へと繋がると確信しております。

政策・拡大室 運営方針

輪の拡大

室長 杉村 原生

私達が住まう地域の発展には先輩諸氏が紡いできた歴史の恩恵があり、その勇気ある一步の積み重なりが現在の苦小牧を形成してきました。次代を担う若者達に地域を託す責任世代には、閉塞感漂う社会の中でも躍動感溢れる未来が切り拓ける事を伝える責任があります。より良い次代の創造に向けて、地域に無関心な人々が気付きを得て、未来に託すべき地域の形について対話を繰り返す事から、住まう人々の意識変革を導く必要があります。

そのためには、身の回りに在る様々な社会問題と向き合い、原因の追究から次代を見据えて、地域と住まう人々が成すべき形を模索して参ります。そして、次代に向けて地域と共に歩むために、地域が果たす役割や環境がいかに重要であるか検証するよう促し、責任世代が本質を掴み取る意識の向上を推進して参ります。さらに、次代を担う若者達の自発性を喚起するために、地域の現状や未来について共に考える機会を創出させ、担い手が行動を起こす下支えをして参ります。また、未知の領域を切り拓き意欲的な会員拡大を継続してゆくために、これまでに蓄積した情報や実績をもとに組織力を駆使した戦略を共有するよう導き、L O M全体での会員拡大活動に臨む環境を整えて参ります。そして、地域全体の意識変革を促すために、青年会議所活動の魅力に磨きをかける事で、私達の運動が責任世代と共に学び連携を深める足掛かりとなるよう導いて参ります。いつの時代でも自らが未来を照らせる次代のため、地域がどうあるべきか議論し、住まう人々に向けて共に考え、共に歩む同志としての意識喚起を促す事で、変革の輪の更なる拡大を導いて参ります。

多くの同志達が次代への意識を高めて、その繋がりが変革の連鎖を生み、目指すべき地域の未来に近づく力強い一步を踏み出す事ができます。そうする事で変革の輪が幾重にも増え続けて、その結果が明るい豊かな「とまこまい」の創造に繋がると確信しております。

開発室 運営方針

水到渠成

室長 中岡 亮太

価値観の多様化や少子高齢化による青年世代の減少の中、明るい豊かな未来へ向け一人ひとりが地域を想い、仲間と日々挑戦をあきらめず前進し続けていますが、地域を巻き込み運動を行うには他者をも巻き込む力が不可欠です。全員が改めてJ A Y C E Eの基本を見詰め直す事で、苦難を共にする絆、地域を想う心、率先して物事に取り組む姿勢を常に共有し、地域に必要な青年世代の先頭を歩む人財となり活動や運動を行う必要があります。

そのためには、我々が青年会議所活動や運動に取り組む事で体感できる経験から、活動の根本にある様々な基本的要素を学び身に付ける事で、メンバー一人ひとりの能力が向上するように環境を整えて参ります。そして、責任世代である我々が「まち」を形成する一員だと強く認識をするために、青年経済人として襟を正し見られている事を自覚した上でJ A Y C E Eとしての基本的要素を理解し、問題の本質を見極め活動や運動が高められる手法を模索するように指導して参ります。さらに、一人ひとりが本質を見出し明るい豊かな「まち」に向かって地域を牽引するために、メンバーの能力を伸ばし、問題を見極め地域の課題解決へと導く事で、地域の未来に向け率先して取り組む姿勢が身に付けられるように指導して参ります。また、周囲に影響力を与えられる青年経済人を育成するために、地域を想う心を育み地域との向き合い方を示し、メンバーが周囲を巻き込みリーダーシップを発揮出来るよう導いて参ります。青年経済人と地域の方を巻き込み共に個々の成長から周囲を成長させ意識変革を促し組織力が向上する事で、地域全体の成長へと繋がります。

我々一人ひとりが同じ目標に向かって結集し、本質を捉えた活動並びに運動から周囲の人々の共感と信望を得る事で、意識変化が伝播し地域が活性化する事で歩みを共にし、まちづくりがより加速され明るい豊かな「とまこまい」の創造へ繋がると確信しております。

L O M向上委員会 運営方針

格致日新

委員長 若 林 徹

常に地域を想い時代に即した挑戦をする組織として在り続けるには、L O Mとして効率的で意欲的な行動ができる環境を整える必要があります。L O Mの運動や活動、趣旨がメンバー間で共有される事で共通認識が明確化され、自己認識に由来する資質向上に繋がり、L O Mの魅力や我々の運動に市民から共感を得られることで組織価値が向上し、メンバーが自信をもって新たな一歩を踏み出す一体感ある組織を形成する事が求められています。

そのためには、L O M向上委員会が常に運営に対し改善意識を持ち、メンバーが日々の活動に邁進できる環境を整え、運営の要である諸会議の準備、設営、運営、庶務全般を円滑に遂行します。そして、我々の活動に対し地域の人々から理解と共感を得られ、各委員会が生きいきとした運動を展開するために、H Pの運営、S N Sやより効果的な媒体での運用を模索し、メンバー間での情報共有を促進させ、地域の人々に対し青年会議所に対する認識の調査分析を行い、地域に対する想いやL O Mの魅力を広く発信し、組織としての対外的な価値の向上に努めます。さらに、団結力を高め、より意欲的に活動できる体制を構築するために、各委員会の活動や運動、メンバー個々の情報を把握し全体で共有、活用できる環境を整えます。また、一人ひとりがL O Mの活動に必要な存在であるとの認識を深め、帰属意識と今後の活動への意欲向上を図るために、年間の活動を振り返り、讃え合える例会を構築します。メンバーが組織の一員である事に責任を持ち、常に時代に即した挑戦を意欲的に行えるL O Mとなるべく、組織の下支えとしての自負をもって運営します。

委員会による運営や情報の発信によって、各委員会やメンバーが常に気概を持って時代に即した挑戦ができ、組織力が最大限に発揮される環境となり、誇りに満ちた組織へと成長を遂げることが、我々が目指す明るい豊かな苦小牧の創造へ繋がると確信しております。

交流推進委員会 運営方針

交流の道の未来

委員長 佐々木隆幸

苫小牧青年会議所は65年間、先輩諸氏が明るい豊かな社会の実現に向けた想いから、繋がり築いた道があります。私達は歴史をしっかりと受け継ぎ理解した上で、未来への道を切り拓き、歩みを止める事無く進化と発展を繰り返し、次世代に向け継承していかなければなりません。全ての人に同じ志が広がり、この先どんな問題にも信頼する仲間と共に挑むには、共有する多くの時間から育くむ絆を強固なものとする交流が求められています。

そのためには、組織内の繋がりを深め誰もが楽しむ交流の機会を提供して参ります。そして、新年交礼会では我々の向かう道を先輩諸氏、関係諸団体に向け強く発信するために、一年間の運動に挑むメンバーの足並みを揃え、気概に満ちた姿勢を示して参ります。さらに、道南エリアスポーツ大会では同じ志を持つ仲間と交流を深めるために、メンバー全員、一生懸命取り組む姿勢へ導き、全力で楽しみ道南エリアの同志と想いを共有する支援を行って参ります。また、OB交流事業では今後の運動を邁進するために、紡がれてきた歴史を理解し、さらなる運動を展開すべく我々の活動を伝え、苫小牧青年会議所の礎となる事業を構築致します。さらに、繋がりから育まれた絆を強固にするために、一丸となり成し遂げた事に対し、他を想い団結心無くす事無く未来へ向け気概を示し、共有して参ります。そして、卒業式では今まで築いた絆を今後忘れる事無く持ち続けていただくために、苦楽を共にした卒業生に感謝し華々しく送ります。目標に向かう中で真剣に仲間を想い一致団結し、達成する喜びを感じる事の出来る真の絆が育まれる活動を行って参ります。

様々な苦楽は人を動かし未来を切り拓く最大の原動力となります。繋がりを多く創出し信頼する仲間との絆が育まれることで、それがやがて地域へと伝播し、積極的に歩みを共にする仲間で溢れたならば、真の明るい豊かな苫小牧の実現に近づける事と確信致します。

おまつり委員会 運営方針

共に創る未来

委員長 鈴木 吾

先輩諸氏がこのまちを想い多くの人達と共に歩み、築きあげられてきた伝統文化であるおまつりは、活気に満ち溢れる賑わいとたくさんの笑顔をもたらす地域振興のひとつとして、この時代へ脈々と受け継がれてきました。この付託された担いを今後も止める事なく未来へ歩を進め、おまつりを通じ私達の活動をより多くの市民に広げ、繋がりをもより強固なものにしていくと共に、連携を育み次の世代へと引き継いでいく事が求められています。

そのためには、市民、関係各所との繋がりを広げ連携し私達の運動を通じこのまちに住む人達へ想いを伝播し、楽しみ溢れる未来へ歩を進める事業を展開して参ります。そして、市民との交流を深め繋がり拡大へと向かうために、とまこまいスケートまつりでは多くの人達と交流を図り参加、連携することから楽しみと喜びを体感していただき、今後の在り方について検討をして参ります。さらに、育まれた繋がりをより強固にするために、とまこまい港まつりでは市民、関係各所と連携し輪の拡大を図り企画、設営、運営を共にを行い、実行委員会に加入し3年目を迎える本年、過去からの調査、分析を基に検証し今後の在り方を検討して参ります。そして、今後の関わり方を提示するために、たるまえサンフェスティバルでは調査、分析を行い検証し今後の在り方を判断して参ります。各種おまつりを通じ、このまちに住む人達との繋がりをより強固なものとし、率先して交流を深め連携の輪を育み、市民一人ひとりが主体性を持ち行動できる方法を模索し、おまつりの在り方を考え、今後の私達の関わり方を含め、未来へ向けた新たな方向性を示して参ります。

このまちに住む一人ひとりの繋がりの輪が育まれることにより、新たな市民の意識変革をもたらす輝き溢れる未来を切り拓く原動力となります。大きな一歩を踏み出すそのものが足跡となり多くの笑顔を生み出す、楽しみ溢れる明るい未来へと繋がる事と確信します。

教育政策委員会 運営方針

「とまこまい」への道標

委員長 櫻田 泰己

地域は住まう人々の意識により形作られており、次代を担う若者達の意識を育む教育と環境が未来を創る源となりますが、時代の変遷により地域毎に教育や環境の違いが生じ、若者達の生きる力の体得にも影響を与えています。変化の激しい時代でも未来を切り拓ける人財へと若者達を導くには、責任世代が自身も育成環境の一部である事に気付きを得て生きる力の育成に対する責任意識を高めて地域全体での運動に繋げていく必要があります。

そのためには、地域に潜在する担い手の育成問題について多様な視点から調査分析を行い、家庭や地域、教育機関の課題を見出します。そして、責任世代が地域への当事者意識を高めるために、基本となる道德観と倫理観を基に担い手を育成する模範となり、良好な育成環境を構築している他地域の事例を検証して、地域が一体となる好循環教育の礎を築きます。さらに、地域が連携し担い手育成への支援体制を構築するために、各組織が持つ強みを発揮できる支援策の検討と、具体的な連携の在り方を示し実施に繋がります。また、自発的な担い手を育成するために、担い手が社会と自身との繋がりについて考え、自発的な行動により未来を創る生きる力の体感を通じて、地域や社会への関心と、自ら学ぼうとする意欲の向上に繋がります。さらに、時代に即した好循環教育を構築するために、取り組み結果の検証から効果的な手段を導き出し、教育に携わる機関に提言します。我々の運動が地域を巻き込み、課題を解決に導く理想の形を道標として示す事で、地域が一体となって議論を深める事により、より良い次代の創造を果たせる環境の構築に邁進して参ります。

責任世代、行政、各種団体の枠を超えて連携し幅広い教育の場を創出する事で、「ひとづくり」である教育によって育った人財が未来の「まちづくり」を行い、新たな担い手を生み出す好循環が生まれる事により、明るい豊かな「とまこまい」になると確信致します。

拡大委員会 運営方針

次代に紡ぐ未知なる拡大への道

委員長 高橋銀次郎

我々は会員の意識を拡大し志を紡ぎ組織を発展させ続け、明るい未来を目指し率先して地域を牽引してきましたが、近年の各地会員会議所では経験の豊かな会員の減少に伴う運動力の低下が懸念されており、我々も将来を見据えて次代を創る一助となる運動の持続を考える時期にあります。従来の会員拡大手法の踏襲だけではなく、責任世代に対しても地域を担う意識醸成を促す事で、未来へ向けて未知の領域に踏み込む事が求められています。

そのためには、過去の会員拡大活動から潜在する課題を洗い出し、蓄積した情報や実績と各地会員会議所の成功事例や、OBやメンバーが持つ情報を多角的視点で調査分析し、対象者への適切なアプローチ方法と、次代へと引き継げる拡大計画を立案して参ります。そして、組織力を駆使した有効的な会員拡大活動を行うために、メンバーに拡大計画と将来のビジョンを伝え会員拡大の重要性を共有し、委員会が先頭に立ち行動を示す事で、LOM全体の士気を上げ実践へと促して参ります。また、拡大対象者の裾野を広げるために、地域に住まう人々が我々の展開する運動に触れ、まちづくりの楽しさを体感し、地域を担う責任世代としての意識を得るきっかけを生み出して参ります。そして、責任世代が立場の枠を越えて連携を深めるために、交流を通じて互いの知識や繋がりを高め合える機会を創出し、地域の未来を担う人財として仲間意識を強める事で、地域全体の意識拡大に繋げて参ります。同じ志を持つ仲間だけでなく、地域の責任世代と積極的に関り、両輪の意識を広げ次代に紡ぐ未知なる拡大への道を作り、地域を照らす志を継承し続けて参ります。

輝く未来の実現に向けて地域の意識変革を導き、同志の意識の更なる繋がりがまちづくり運動の原動力を躍進させます。その活力を拡大し未知の領域へと勇気ある一步を踏み出す事で、理想とする明るい豊かな「とまこまい」の創造を実現させると確信しております。

JAYCEEの力向上委員会 運営方針

今を本気で生きる

委員長 上田 浩 司

「まち」を形成しているものは、建造物や機構の存在のみではなく、そこに必ず「人」の存在があります。「まち」の成長には「人」の成長が必要不可欠です。その「まち」に住まうJAYCEEは、活力と知力を兼ね備え積極果敢に社会変革運動を実践出来る人間でなければなりません。不断の努力によりJAYCEEの力を向上させ、個の成長と共に地域をより良い未来へ導き周囲に意識変化と成長を促す人財となる事が求められています。

そのためには、日々の青年会議所活動や運動を通して得られるJAYCEEの基本を体現し示す事で重要性を再認識し理解していただきます。そして、「まち」をより良い未来へ成長させて行くために、基本の深い理解から得られるJAYCEEのあるべき姿を示して参ります。さらに、日々直面する多様な問題の課題を見出し解決するために、根本にある様々な基本的要素を学び身に付けていただく事で、個の能力を向上させ解決へと導きます。また、リーダーシップを発揮して地域を牽引していく人財となるために、自らのイメージを向上させ魅力を高める事で周囲の人々に影響を与えられる人間力豊かな人物となれるように導いて参ります。そして、まちづくりを共に担っている地域に住まう青年経済人に対し、個の能力を向上させ人間力豊かで魅力ある人財となっていくために、JAYCEEの基本を学び身に付ける機会を創出致します。今という瞬間を大切にしてお本気で挑戦し続ける事によってのみ得られる個の成長が、周囲への意識変革を生みだし波及して行く事で、社会変革運動が活性化しまちづくりをより加速させられるように導いて参ります。

JAYCEEの基本を通してこの普遍的な原則を理解し実践する事で、自身の成長のみならず周囲を取り巻く全ての人々を巻き込む意識変化をもたらします。その意識が共に「とまこまい」のあるべき姿を見出し輝き溢れる未来への一歩を踏み出せると確信致します。

一般社団法人 苫小牧青年会議所

2018年度 会員心得

- ・ 品格ある青年として、市民の視線を常に意識し、信頼を得る活動を継続すること
- ・ 会員としての責任を自覚し、L O Mでの活動はもとより、公益社団法人日本青年会議所、同北海道地区協議会、同北海道ブロック協議会道南エリア、その他対外的事業に対して、積極的に参加すること
- ・ 諸会議、諸事業、例会等に参加する際は、やむを得ない場合を除き、私語、雑談、途中退室等を慎むこと
- ・ 諸会議、諸事業、例会等を、やむを得ない理由により欠席、遅刻、早退する場合は、直属の担当者、専務理事、または主催者に遅滞なく連絡し、必要に応じ代役を立てること
- ・ スケジュールの定めがあるものについては、その定刻を遵守すること
- ・ 返信を要する各種案内（例会案内・事業案内）には、返信期間内に必ず返信すること
- ・ ロバート議事法を始めとする会議手法を、しっかり理解すること
- ・ 諸会議場への入退室の際は、会場を神聖な場所と認識し、敬意を払い一礼すること
- ・ 各所属長は、情報を開示し、傘下会員の理解を深め、活動に参加させる責任を持つこと
- ・ 対内外の団体および個人を、誹謗または中傷するような言動や行動を慎むこと
- ・ 青年会議所の目的や歴史について、しっかりと理解すること
- ・ 三信条、J C I クリード、J C I ミッション、J C I ビジョン、J C 宣言文、綱領、スローガンをしっかりと理解すること
- ・ 定款、規則集、諸規定をしっかりと理解し、遵守すること
- ・ J C ソング、若い我等を暗唱し、しっかりと歌うこと
- ・ 諸事業、例会等に用いる資材、食材、金品等の使用については、無駄を省き、無用な廃棄を慎むこと
- ・ 自らのふるさと、職場、家族に感謝し、必ずより良いものを持ち帰ること
- ・ 仲間を助け、先輩を敬うこと

一般社団法人 苫小牧青年会議所

2018年度 理事長 丹 治 秀 章

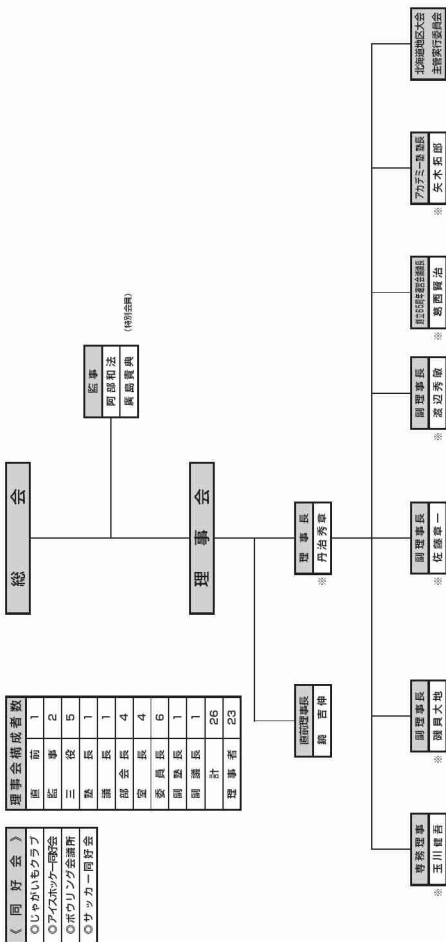
一般社団法人苫小牧青年会議所

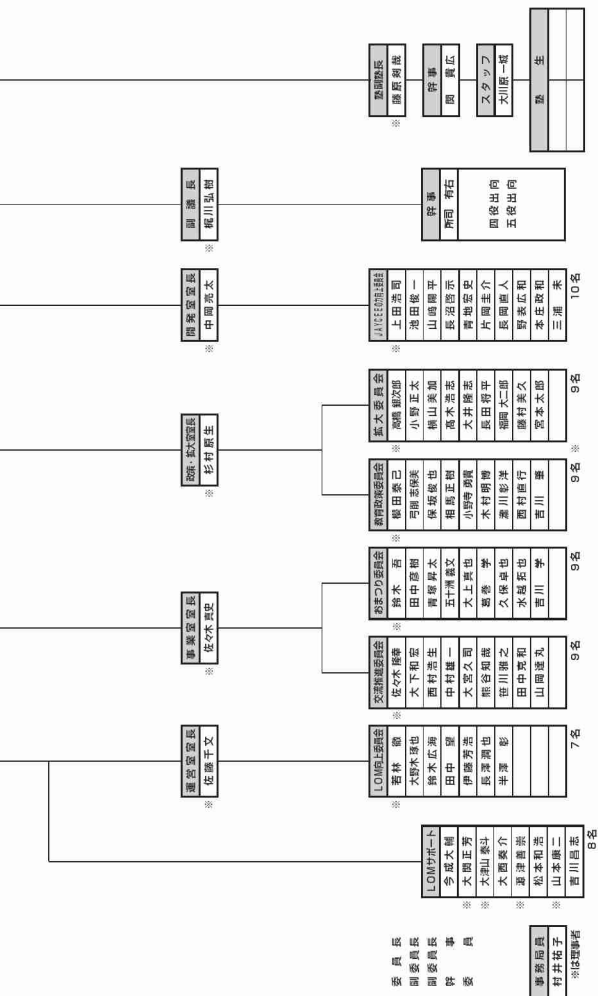
2018年度年間予定		1月	2月	3月	4月	5月
三役会	事務局 19:00	5日(金) 17日(水) 31日(水)	14日(水) 28日(水)	13日(火) 27日(火)	11日(水) 25日(水)	16日(水) 29日(火)
理事会	経済センタービル 19:00	11日(木) 24日(水)	7日(水) 22日(木)	6日(火) 19日(月)	4日(水) 18日(水)	9日(水) 23日(水)
例会	Gホテルニュー王子 19:00～21:00	30日(火) JAYCEEの力向上	27日(火) 拡大	28日(水) 周年会議体	26日(木) JAYCEEの力向上	30日(水) 教育政策
議案提出期日：三役会・理事会の2日前の19時迄(例：3日理事会の場合、1日の19時まで)						
(一社) 苫小牧青年会議所 総会及び継続LOM事業		事務所開き 9日(火) 新年交代会 22日(月) 定時総会 24日(水)	第52回 スケートまつり 3日(土)～4日(日)	八戸冬季交流戦 (●●) 4日(日)		
日本JC NOM 主要事業 及びJC I 諸会議		京都会議 (京都) 18日(木)～21日(日) 日本JC総会 (京都) 20日(土)	金沢会議 (金沢) 16日(金)～18日(日)	日本JC総会 (東京) 24日(土)		ASPAC (鹿児島) 24日(水)～27日(日)
北海道地区協議会 正副会議		(函館) 13日(土)	(札幌) 3日(土) (旭川) 23日(金)	(岩見沢) 10日(土) (網走) 30日(金)		(滝川) 12日(土)
北海道地区協議会 会員会議所会議 その他		地区役員会 (函館) 14日(日)	地区役員会 (札幌) 4日(日) 地区役員会 (旭川) 24日(土)	地区役員会 (岩見沢) 11日(日) 地区役員会 (網走) 31日(土)	JCFフォーラム (札幌) 28日(土)	地区役員会 (滝川) 13日(日)
		会員会議所会議 (京都) 19日(金)	会員会議所会議 (旭川) 25日(日)		会員会議所会議 (網走) 1日(日)	
北海道ブロック協議会 道南エリア その他エリア事業		エリア会議 (京都) 19日(金) 道南メタモルフォーラム (伊達)	エリア会議 (登別室蘭) 10日(土)	エリア会議 (白老) 17日(土)	エリア会議 (札幌) 27日(金)	
各地LOM 式典 その他		新年交代会(1月) 岩内4日(木)・伊達6日(土)・余市6日(土) 倶知安8日(月)・札幌10日(水)・白老10日(水) 八王子11日(木)・森12日(金)・小樽13日(土) 函館13日(土)・八雲15日(月) 登別室蘭16日(火)・千歳16日(火) 浦河17日(水)・日高中部18日(水) 札幌対話集会(3月) 札幌16日(金) 仮				白老40周年 (白老) 21日(土) 仮

2018年度 年間スケジュール

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
13日(水)	4日(水) 18日(水)	1日(水) 22日(水)	3日(月) 19日(水)	3日(水) 17日(水)	5日(月) 15日(木) 27日(火)	10日(月) 14日(金)
6日(水) 20日(水)	11日(水) 25日(水)	8日(水) 29日(水)	12日(水) 26日(水)	10日(水) 24日(水)	9日(金) 21日(水)	5日(水) 19日(水)
28日(木) アカデミー	26日(木) 三役	23日(木) JAYCEEの力向上	20日(木) 交流推進	29日(月) アカデミー	29日(木) LOM向上	12日(水) 三役
議案提出期日：三役会・理事会の2日前の19時迄(例：3日理事会の場合、1日の19時まで)						
	定時総会 11日(水) OB交流事業 19日(木)	第63回 滞まつり 3日(金)～5日(日)				定時総会 5日(水) 卒業式 7日(金)
	サマ-コンファレンス (横浜) 21日(土)～22日(日)			全国大会 (宮崎) 4日(木)～7日(日) JCI 世界会議 (インドネシア) 30日(火)～11月7日(土)		
(江別) 2日(土)	(中標津) 6日(金)	(苫小牧) 3日(金)	(苫小牧) 6日(金) (北見) 29日(土)	(釧路) 26日(金)	(網走) 10日(土) (札幌) 22日(木)	
地区役員会 (江別) 3日(日)	地区役員会 (中標津) 6日(金) 北方領土現地大会 (根室) 8日(日)	地区役員会 (苫小牧) 4日(土)	地区役員会 (苫小牧) 6日(木) (北見) 30日(日) 北海道地区大会 (苫小牧) 7日(金)～9日(日)	地区役員会 (釧路) 27日(土)	地区役員会 (札幌) 23日(金)	
	会員会議所会議 (根室) 8日(日)		会員会議所会議 (苫小牧) 7日(金)		会員会議所会議 (札幌) 24日(土)	
エリア会議 (浦河) 16日(土) 道南エリア スポーツ大会 16日(土)～17日(日)	国際アカデミー (姫路) ●日(土)～●日(日)	エリア会議 (余市) 18日(土)		エリア会議 (苫小牧) 13日(土)	エリア会議 (小樽) 18日(日)	
石狩35周年 (石狩) 帯広60周年 (帯広) 29日(金) 仮			岩内55周年 (岩内) 1日(土) 仮	開催月未定 芦別JC65周年・北広島JC40周年 苫小牧JC65周年・美幌JC65周年 芽室JC45周年・八雲JC45周年		

一般社団法人苫小牧青年会議所 2018年度 組織図





一般社団法人苫小牧青年会議所

2018年度 入会年度・年齢早見表

	1 年 目	2 年 目	3 年 目	4 年 目	5 年 目	6 年 目	7 年 目	8 年 目	9 年 目	10 年 目	11 年 目	12 年 目	13 年 目	14 年 目	15 年 目	16 年 目	17 年 目	合 計
S52 40歳			大井 大下 杉村 弓削	大上	磯貝 上田 樋中	源津 水越					野表	矢木						
S53 39歳			神岡	長沼 半澤 三浦 山岡		丸原 大宮 久保 佐々木 謝田	鯨 丹治	中岡				片岡		大関			山本	
S54 38歳	今成 小野 相馬 高木 長岡	熊谷 本庄	伊藤 櫻田 高橋 福岡	堀川 秋田			葛西		神岡 藤原	佐藤			阿部					
S55 37歳			秋田 佐々木 神岡 若林	池田	瀬川			渡辺		吉川					笹川			
S56 36歳	中村		関 西村			木村												
S57 35歳	五十洲					松本		大津山				大西						
S58 34歳			青塚	青地 大野 小野 所司 宮本		玉川												
S59 33歳	葛巻			保坂														
S60 32歳			長田															
S61 31歳	長澤 吉川		山崎	横山														
S62 30歳																		
S63 29歳																		
H1 27歳																		
H2 26歳																		
H3 25歳																		
H4 24歳																		
H5 23歳																		
H6 22歳	藤村																	